

病者平癒の祈祷

※(この祈祷は通常、病者宅や病室で行われるが、教会で行うも可。)

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善

の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢

より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

輔司誦

司誦

誦

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨

は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、

我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か

ず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

司誦

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第七十聖詠

主よ、我爾を恃む、願わくは我世世に差を得ざらん。爾の義に縁りて我を援け、我を免れしめ、爾の耳を我に傾けて我を救い給え。我が為に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、爾我を救わんことを命ぜり、蓋爾は我が防固、我が能力なり。我が神よ、我を悪者の手より、不法者及び迫害者の手より救い給え、蓋主神よ、爾は私の望みなり、我が幼きより私の恃なり。我娘まゐる時より爾に護られ、爾我を母の腹より出せり、我爾を讃め揚げて息めざらん。多くの者の為に我奇怪の如き者となれり、然れども爾は私の堅き望なり。願わくは我が口は讚美に満てられて、我爾の光栄を歌い、日に爾の威厳を歌わん。我が老ゆる時我を棄つる母れ、我が力衰うる時我を遺す母れ、蓋我が敵は我を論じ、我が霊を伺う者は相謀りて云う、神は彼を棄てたり、追いて彼を拘えよ、救う者なければなり。神よ、我に遠ざかる母れ、我が神よ、速に我を佑け給え。我が霊に仇する者は、願わくは辱められて消えん、我を害せんと

謀る者は、願わくは辱めと侮りとを被らん。唯我常に爾を恃み、倍爾を讃め揚げん。我が口は爾の義を傳え、日に爾の恩を傳えん、蓋我其数を知らず。我主神の能力を思い、爾の義、独爾の義を記憶せん。神よ、爾は我が幼なきより我を誨え給えり、我今に至るまで爾の奇迹を傳う。神よ、歳老い髪白きまで我を棄てずして、我が爾の能力を此の世に、爾の権能を凡そ將來の者に傳うるに迨べ。神よ、爾の義は極めて高し、爾大なる事を行えり、神よ、孰か爾に比ぶるを得ん。爾は多く且つ激しき苦難を我に遣せり、然れども復我を生かし、復我を地の淵より引き出せり。爾我を挙げ、我を慰め、我を地の淵より引き出せり。我が神よ、我琴を以て爾と爾の真実とを讃栄せん、イズライリの聖なる者よ、我瑟を以て爾を讃頌せん。我爾に歌う時我が口は喜び、爾が救いし我が霊も喜ぶ。我が舌は日に爾の義を傳えん、蓋我を害せんと謀る者は恥を被り、辱を受けたり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光栄は爾に帰す。(三次)

信 經

※(病者自らこれを誦す。能わざれば、司祭これを代誦す。)

我信ず、一の神・父・全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。
 又信ず、一の主イイス・ハリストス神の独生の子、萬世の前に父より生まれ、
 光よりの光、眞の神よりの眞の神、生まれし者にて造られしに非ず、父と一體
 にして萬物彼に造られ、我等人々の為、又我等の救いの為に天より降り、聖神及
 び童貞女マリヤより身を取り人となり、我等の為に、ポンティイピラトの時十字
 架に釘うたれ、苦しみを受け葬られ、第三日に聖書に應いて復活し、天に昇り、
 父の右に坐し、光榮を顯して生ける者と死せし者とを審判する為に還来たり、其国
 終なからんを。
 又信ず、聖神・主・生を施す者、父より出で、父及び子と共に拝まれ讃められ、預言
 者を以て嘗て言いしを。
 又信ず、一の聖なる公なる使徒の教会を。
 我認む、一の洗礼、以て罪の赦を得るを。
 我望む、死者の復活、並びに來世の生命を。 アミン。

大 聯 禱

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。(以下毎次同様)

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の家と諸方とに於て、諸教則を堅く信じ守る者の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に來る者の為に主に祈らん。

爾の僕(婢)〔某〕の自由と自由ならざる悉くの罪を赦して、之に仁慈を賜わ

んことを主に祈らん。

彼の若き時の愆と知ると知らざるの罪過を記憶せず、爾の大なる仁慈と慈憐

とを以て、之に壮健を賜わんことを主に祈らん。

今も爾の僕(婢)〔某〕と我等の熱切なる祈を輕んぜず、仁慈を以て聴き容れ、之

に壮健を賜わんことを主に祈らん。

嘗て爾が恩寵の言を以て病者を癒せし如く、爾の僕(婢)〔某〕を、速に病

輔 輔

の床より起こし壯健を賜わんことを主に祈らん。
爾の聖神を以て彼に臨み、彼の中に在る諸の疾病を癒さんことを主に祈らん。
ハナアンの婦の声を聴きて之を憐みし如く、今も我等諸僕婢、彼の婦の如く爾に呼ぶ者の祈を聴き容れて、病の床に臥す爾の僕（婢）「某」に仁慈を垂れて、之を癒さんことを主に祈らん。

輔 輔 輔

我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祈らん。
神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。

至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光荣の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん。

主爾に。

司 詠 詠

蓋爾は仁慈と慈憐と仁愛との神なり、我等光荣を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

主は神なり

輔 詠 輔

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。（三次）

（句）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐みは世世にあればなり。

（句）彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

（句）我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

（句）工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ（第四調）

独り仁慈にして、人を助くるに速なるハリストスや、天より速に爾の病める僕（婢）「某」に臨み、之を病より救い、之を癒して爾を歌わしめ、生神女の祈禱に因りて、常に爾を讃揚せしめ給え。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

コンダク（第二調）

嘗て。ペトルの 姑 及び 病の床に 携え来られたる 病者に 救を 願したるがごとく、病の床に 臥す者及び 死に至る 傷を負い 苦しむ者に 臨みて、之を 癒せよ、蓋爾は 独り仁慈にして、我等の 病と 諸の 痛を負う者なればなり。 謹みて 聴くべし。

衆人に 平安。

爾の 神にも。

睿智。

ポロキメン

主や、我を 憐み 給え、我弱ければなり。 主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。
主や、我を 憐み 給え、我弱ければなり。 主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。
蓋死の中には 爾を 記憶する なし。 主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。
主や、我を 憐み 給え、我弱ければなり。 主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。
主や、我を 憐み 給え、我弱ければなり。 主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。
主や、我を 癒し 給え、我が 体は 慄ぐ。

睿智。

聖使徒 イアコフの 公書の 読み。

慎みて 聴くべし。

書 札 (イアコフ公書 五・二〇一六)

「兄弟よ、主の名に 依りて 言ひし 諸預言者を以て、苦難と 恒忍との 式と せよ。 視よ、我等は 忍耐せし者を 福なりとす。 爾等嘗て イオフの 忍耐を 聞き、且つ 主の如何に之を終えしを見たり、蓋主は 至仁にして 矜恤なり。 我が 兄弟よ、 首として 誓を 発する 勿れ、或は 天を以て、或は 地を以て、或は 他物を以て 誓う 勿れ、爾等惟是を以て 是と 為し、否を以て 否と 為すべし、恐らくは 罪に 陥らん。 爾等の中に 苦しむ者あらば、祈禱すべし、 樂しむ者あらば、聖詠を 歌うべし。 爾等の中に 病む者あらば、教会の 長老等を 招くべし、彼等主の名に 依りて、彼に 油を 傳けて、彼の 為に 祈禱すべし。 信に 由る 祈禱は 病める者を 救ひ、主は 彼を 起さん、若し 彼罪を 行ひしならば、赦されん。 爾等互に 己の 過を 認め、又互に 祈れ、癒されん 為なり、蓋義者の 熱切なる 祈禱は 多くの 力あり。」

詠 誦 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。
（第一句）主や爾の憤りを以て我を責むる勿れ。
（第二句）爾の憐に因りて我を救い給え。
輔 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。
司 衆人に平安。
司 爾の神にも。
詠 主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。
輔 謹みて聴くべし。

福音音（マトフェイ伝 八・五—一三）

「彼の時、イイスス、カペルナウムに入りしに、百夫長彼に就きて、求めて曰えり、主よ、私の僕癱瘋にて家に臥し、苦しむこと甚し。イイスス彼に謂う、我往きて之を醫さん。百夫長對えて曰えり、主よ、爾が私の舎に入るは、我當らず、惟一言を出せ、然らば我が僕癒えん、蓋我人の權に属すれども、我が下に兵

卒ありて、我此に往けと云えば往き、彼に來れと云えば來り、我が僕に是を行えと云えば行う。イイスス之を聞きて奇と爲し、従う者に謂えり、我誠に爾等に語ぐ、イズライリの中にも、我是くの如き信を見ざりき。我又爾等に語ぐ、衆くの者、東より西より來りて、アウラアム、イサアク、イアコフと偕に天国に席坐し、而して国の諸子は外の幽暗に逐われん、彼處には哀哭と切齒とあらん。イイスス又百夫長に謂えり、往け、爾の信ぜし如く爾に成るべし。斯の時、其僕癒えたり。」
主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。

重聯禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
詠 主憐めよ。（三次）〔以下每次同様〕
輔 靈と体とを癒す者や、悲しむ心を以て爾に就き、傷感の情を以て爾に呼ぶ、爾の僕（婢）〔某〕の病を癒し、靈と体の諸慾を治め、且つ仁慈なるに因りて彼

(等)の自由と自由ならざる罪過を赦して速やかに病の床より起こし給え、爾に祈る聆き納れて憐めよ。

罪人の死を欲せず、信じて生きんことを欲する者や、仁慈にして爾の僕(婢)「某」を赦し、憐み、病を禁じて悉くの欲と患とを去り、嘗てイアイルの娘を病の床より起こせし如く、爾が全能の手を伸べて彼を壮健に成し給え、爾に祈る聆き納れて憐めよ。

ペトルの姑に触れて熱病を癒しし者や、今も仁慈にして痛く苦しめる爾の僕(婢)「某」の病を癒し、彼に速に壮健を與え給え、平癒の泉や、切に爾に祈る聆き納れて憐めよ。

エゼキヤの涙とマナシヤ及びニネワイヤ人等の痛悔とダワイドの痛悔を受けて速に憐みし至善なる主や、切に爾に獻ぐる我等の祈祷をも受け、痛く病める爾の僕(婢)「某」を憐み、此に壮健を與え給え、生命と不死の泉や、涙を以て祈る、聆き納れて速に憐めよ。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や我等に聞き給え、主宰や、我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛

輔

輔

輔

司

する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

主に祈らん。

主憐めよ。

詠

輔

詠

祝文

司

主宰・全能者、罰して死に至らしめず、衰えたる者を堅固にし、卑しき者を擧げ、人の形体の愁傷を治す聖なる王、我等の神や、爾に祈る、爾の仁慈を以て病める爾の僕(婢)「某」を顧み、彼(等)の凡の自由と自由ならざる罪過を赦し給え、ああ主よ、爾の癒す力を天より降して形体に触れ、病の力を消し、慾と悉の害ある病を鎮め、爾の僕(婢)「某」を癒し、彼(等)を病の床より起して悪しくならしめず、之に全治を與えて、彼(等)を爾の教会に悦ばれ、爾の旨を致す者と為し給え、蓋我等の神や、憐み救う事は爾に帰す、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

詠

アミン。

※「病者領聖式」のある場合は、此處で行う。）

輔 睿智。^{えいち}

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操^{みさお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾^{あたみ}を崇め讃^{あがほ}む。

司 ハリストス神我等の恃^{たのみ}や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降^{ふくだ}せ。

司 ハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、〔聖

詠 某〕（病者の聖人の名を挙ぐ）、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。